

# 新任検査員用疾病カラーアトラスの作成

○西條 怜央, 福田 純子, 西村 英之, 小野 聡美

## はじめに

当所では、新任検査員にと畜検査員としての基本的な知識、技術などを習得させるため、着任時から研修期間を設け検査技術の指導を行っている。

と畜検査における検査対象疾病は多岐にわたり、検査すべき疾病を学ぶ際には既存の成書やカラーアトラス<sup>1),2),3)</sup>を参考にしている。しかしながら、既存のカラーアトラスは当所の検査において出現頻度の高い疾病の事例が不足していることがあるなど新任研修の教材として最適とは言えない点がある。また、新任検査員にとっては着任から短期間で検査に関する知識・技術を網羅することは難しく、各種疾病の要点を把握するには時間を要する。

そこで今回、新任検査員が当所の検査において注意すべき疾病の情報を短期間で効率よく習得できるよう、豚と畜検査用の「新任検査員用疾病カラーアトラス」を作成したので、その概要を報告する。

## 方法

### (1)掲載する疾病の選定

当所管轄の M と畜場での豚と畜検査における 3 年間(平成 28~30 年度)の各疾病の出現率を算出した。1 日のと畜頭数がおおよそ 1000 頭であると仮定して、1 日あたり 1 検体以上の割合で出現する疾病、すなわち出現率が 0.1%以上の疾病 43 種を選定した。さらに、出現率 0.1%未満ではあるが把握しておくべき一部廃棄疾病 6 種と全部廃棄疾病 6 種を加えた、計 55 種を掲載することとした。

### (2)写真の撮影と選定

令和元年 10 月~令和 2 年 2 月を撮影期間として各疾病につき典型的かつ高度なものを 3 検体以上撮影し、その中から病変のタイプや程度を考慮した上で掲載するものを選定した。併せて、比較対象とするために各臓器の正常写真も撮影した。また、撮影にあたっては短期間で効率よく撮影ができるよう、撮影記録表(表 1)を担当者および検査員間で共有することで進捗状況を一目で確認できるよう工夫した。

### (3)疾病の概要文書の作成

病変に対する説明は、数項目の箇条書き形式で作成し、新任検査員が実際の検査でどのような対応が必要となるか短期間で理解・習得できることを目指した(図 1)。併せて、検査簿への記録に使用する略記号と出現率も表記し、出現率は 3 段階の星印表記(表 2)とした。

### (4)写真掲載ページの作成

写真は全体の外貌と、病変部の拡大及び断面図を掲載し、必要に応じて矢印を付記するなど、一目で要点が把握できるよう工夫した(図 2)。

### (5)作成したカラーアトラスの PDF 化

Microsoft PowerPoint により作成したデータを PDF 化し、検査所共有フォルダに保存することで各検査員が随時確認できるようにした。

疾病名	撮影済み検体数									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
肺	SEP									
	胸膜性肺炎									
	ヘモフィルス性肺炎									
	肺膿瘍									
肝臓	寄生性間質性肝炎									
	肝包膜炎									
	間質性肝炎									
	退色肝 (脂肪肝)									
	肝壊死									
	肝出血									
	肝鬱血									

(表 1) 撮影記録表一部抜粋

星の数	出現率
★★★	2%以上 (1/50以上)
★★	0.2%以上, 2%未満 (1/500以上, 1/50未満)
★	0.2%未満 (1/500未満)

(表 2) 出現率表記

## 腸間膜Ly抗酸菌症

**略記号** My **出現率** ★

**概要**

- Mycobacterium 感染による乾酪壊死
- 生育ロット単位の集団感染が多い
- 腸間膜Ly以外にも乾酪壊死が認められる場合、精密検査保留して枝C担当が他のリンパ節も確認し、精密検査対象条件を満たしていればS担当を呼ぶ

(図 1) 疾病の概要文書



(図 2) 写真掲載ページ

## 結果と考察

今回のカラーアトラスは、当所における豚と畜検査の疾病出現頻度に着目し、重要な疾病を中心に、新任検査員の検査技術の習得が効率よく円滑に進められるよう、簡潔な表現と構成で作成した。

また、各検査員がパソコンの共有フォルダ上で閲覧でき、検査すべき疾病が新しく出現した場合など随時内容の追加・編集が簡単に行えるため、知識を蓄積し組織全体で共有化を図ることができる。新任検査員だけでなく、異動により数年ぶりに検査を行う職員の復習用ツールとしても役立つ他、と畜検査技術の平準化の一助になると考えられる。

今後は、新任検査員の研修において本カラーアトラスを実際に活用してもらい、新任検査員および指導を行う検査員を対象にアンケート等を実施し、有用性についての検証を行いたい。また、検証結果とともに病変の割除技術など、と畜検査に役立つ情報を追加して、さらに充実したカラーアトラスになるよう検討していきたい。

## 参考文献

- 1) 全国食肉衛生検査所協議会編: 食肉・食鳥衛生検査マクロ病理学カラーアトラス
- 2) 全国食肉衛生検査所協議会編: 新・食肉衛生検査マニュアル
- 3) 近代出版: 豚病学—生理・疾病・飼養—